



第36回マーシャル方面遺族会慰霊祭 平成11年4月4日



マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦歿者遺族会)
 〒142-0051 東京都品川区
 平塚3-4-17
 電話 03-3783-8382
 FAX 03-3783-8384
 振替東京 00100-0-93487
 編集兼発行人 黒川 誠

平成十一年度 慰霊祭 総会 直会

荒木 常子

平成十一年四月四日(日)、このところ五月初旬といわれる高温が続き、満開の盛りを過ぎるかと思配していた桜が前日あたりより気温の急低下によってストップがかけられ、神社の境内は勿論、千鳥ヶ淵周辺は此の日の為というばかりに真盛りの桜の大歓迎を受けました。しかし当日の気温は低く花冷えの寒い朝になりました。八時、受付のテント内は寒くてコートを着用させて頂いたまま行いました。九時になると、秋田の奥山キノさんをトップに各地から次々と遺族の方がお見えになり始めました。桜満開の日曜とあって一般の参拝客も境内にあふれる中を全国各地からの、さまざまな遺族会の団体が旗を先頭に次々と参集殿に入って行きます。これだけ多くの方々が、夫を父を兄弟を亡くされたのだと思ひ改めて戦争の悲惨さを感じ目頭が熱くなりました。

十時参集所に集合、晝間副会長より説明を受けてから手水の後、拜殿で修祓を受け、今年中央の渡り廊下を通って直接御本殿に昇り、献饌、祭主祝詞奏上の後佐藤会長の祭文奏上、続いて玉串奉奠は会長その他、埼玉の桜井かね様、広島佐々木千鶴子様、兵庫の土井厚二様、京都の東地井義訓様、富山の村梶光栄様、神奈川の橋田正幸様、東京の柳沢正雄様、長岡ふじえ様、福島の大野 博様、そして最年少の

(3頁へつづく)

目次

平成十一年度 慰霊祭 総会 直会	荒木 常子	1
会長交替に際して	佐藤 宗丕 黒川 誠	2
第35期決算報告書		4
新役員の役割分担		4
慰霊祭参列者芳名		5
慰霊祭に出席して	福島県 中根 禮子 福島県 大野 博	6
新入会員だより	茨城県 横山 芳夫 福島県 中根 禮子	8
ルオットから選った遺影(三)	ルオットから帰った写真 宮城県 佐々木峰子	10
寄付者芳名	キリバス 諸島及び マーシャル諸島 遺骨収集報告	11
会友だより	厚生省 小林 和夫	12
第七五二空ルオット基地を思う	靖国神社だより 昭和館開館	13
千鳥ヶ淵戦没者拝礼式		14
本部だより		15

会長退任に際して

前会長 佐藤 宗丕



会員、会友ならびに関係各方面の皆様には、常日頃当遺族会に格別の御支援助と御協力を賜わり誠にありがたく、厚く御礼申しあげます。

私は昭和三十八年当会設立以来、会運営の主要な業務を遂行してまいりましたが、高齢と健康上の理由から去る四月の定期総会で再任を拝辞し、退任させて頂きました。

三十六年間の長きに亘って、微力にも拘らず常任幹事、副会長、会長の重任を大過なく果たすことのできましたのは偏に皆様方のお励ましと英霊の御加護によるものと深く感謝しております。

後任の黒川新会長および同時に

選任された役員は皆、長い間私と一緒に当会の発展に盡された方々でありますので必ずや皆様の御期待に応え、先達の築かれた本会の輝かしい伝統を更に、進展させて下さることを確信いたします。

戦没者の身近かな方々の多くが老境に入られますが、一方真摯清新たな世代の入会者も亦増えておりますのは誠に心強い限りであります。

会長に就任して

新会長 黒川 誠



平成十一年度の定期総会で本遺

族会五代目の会長に選任されまして会長職をお引受けすることになりました。

佐藤前会長をはじめ歴代の会長は皆立派な方ばかりで会の運営には並々ならぬ努力をされてきました。更に会員皆様の温かいご支援助があり役員一同の協力とあいまつて遺族だけの力で世上に例を見ない活動を続けて輝かしい成果をおさめて参りました。

本会としては発足以来大きな節目となる五十年祭も記念誌「南十字星」を担当役員諸兄の努力と苦心の結果で発刊されました。更に現地慰霊巡拝の企画には本会をはじめって以来の七〇名にもはる会員の参加で行事も無事すまふことが出来ました。これも英霊の加護によるものと感謝の念をあらたに思います。

本会の目的であり私達遺族の悲願であります英霊のみたまをお慰めする灯を絶やさぬことを最大の目標にして、それに徹する気持でご奉仕する所存でございます。会員諸兄の温かいご支援助と役員皆様の御協力を賜り役職に精進致したく思います。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

佐藤前会長には全会員の名を以て感謝状と銀細工「宝船の額」を贈呈致しました。

感謝状

佐藤 宗丕 殿

貴方は昭和三十八年本会結成以来会発展の為中心的役割を担われ昭和六十年二月本会四代目会長に推挙され平成十一年四月に至る実に十四年有余の間に名実共に他に類を見ない立派な会として運営され本会の目的である慰霊の本義に徹し多大な貢献をされました其の偉大な業績に対し英霊もさぞご満足されて居られることと拝察申し上げます

平成十一年四月吉日

マーシャル方面遺族会

当会顧問の栗林徳五郎様は、健康上の理由で顧問をご辞退されましたので報告致します。

(1頁より)

神奈川の服部健太君の十名が代表し、一同拝礼をし黙祷をして、静寂の中に今は亡き御霊に心をはせ、ひとときを過ごしました。



佐藤会長 祭文奏上

本殿より退下、例年通り御神酒と神饌を頂いてから靖国会館前にて一同記念写真を撮りました。今回の参加者は一六七名でした。

総 会

今年も靖国会館に会場がとれず、参集殿も慰霊祭の数が多くて長く留まる事が出来ないのです、総会と直会を九段会館に移して行う事になりました。今年も又、役員改選

の大事な年でもあり一人でも多く会場にお集まり願えるかが心配でした。会館へは距離もあり途中花見客も多く混雑しておりましたが直会出席者一〇一名の方に加えて総会のみの方も多数参集して頂きホッと致しました。

佐藤会長の挨拶に続き、会務の報告その中に環礁六九号で紹介されたルオットから五十四年ぶりに返って来た写真について、その後次々と遺族の方が判明した旨、又その中の大野清太郎さんの弟さんの大野博さんが見えておられてご挨拶に全員の拍手が湧きました。その他、会則の一部改正の件、会



拝殿で修祓

計黒川さんよりの会計報告が監事より承認されました。

次いで役員改選では、佐藤会長がかねてより高齢、健康上の理由から辞意を表明しておられ、役員は何度も翻意をお願いしておりましたが、今回は御意志も固く致し方なく会長の御氣持を了承しました。そして現副会長の黒川誠さんを新会長に推薦し承認されました。役員は副会長晝間楽平、常任幹事石谷典夫、荒木常子、幹事、内海淑子、高林芳夫、山口良二、井上武彦、監事佐竹エス、高橋鎮夫と新会長より任命されました。

佐藤会長、黒川新会長の挨拶に続き長い年月会長と共にボランティアで会の為尽くして下さった佐藤会長夫人に盛大な拍手を送り感謝の意を表し、この二年間事務に奉仕して下さいました尾針さんにも感謝の拍手を送りました。

直 会

総会の後、座を整え直し続いて直会に入りました。松花堂のお弁当に若干のアルコールも入り、なごやかな会となりました。今年も石谷幹事の肝入りでお知り合ひの



直会での日本舞踊

若柳流師範、若柳萌様が日本舞踊で「古城」をはじめ四曲を優雅に披露して下さい、会にひときわ色が添えられました。少し日ざしも明るく、暖かくなった三時頃お開きとなりました。

新年度は黒川新会長の元、新しい体制での会が発足する事になります。長い間熟達の手腕で会を率いて下さった佐藤前会長のお力が大きいだけ、新会長以下新役員の責任も重く思いますが、今後は新たな気持で、会員の皆様が変わらず慰霊を続けて参られますよう努力をして参りたいと思っております。

第35期決算報告書 (自平成10年 1月 1日 至平成10年12月31日)

第36期一般会計予算

マ ー シ ャ ル 方 面 遺 族 会

(自平成11年 1月 1日 至平成11年12月31日)

1 一般会計収支計算書

2 一般会計財産目録 (平成10年12月31日現在)

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	5,276,629
会 費	1,194,500
寄 付 金	1,441,075
受 取 利 息	51,905
雑 収 入 (環礁合本代等)	220,223
(小 計)	(2,907,703)
合 計	8,184,332

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	31,712		
普通預金	283,845		
郵便振替	142,020		
金銭信託	36,029		
定期預金	2,903,742	次期へ繰越	3,397,348
合 計	3,397,348	合 計	3,397,348

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	3,397,348
会 費	1,000,000
寄 付 金	1,200,000
受 取 利 息	50,000
雑 収 入	10,000
(小 計)	(2,260,000)
合 計	5,657,348

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	820,358
運 営 費	633,929
事 務 所 費 (水道光熱費消耗品を含む)	137,426
広 報 費	768,271
印 刷 費	4,190
通 信 費	149,394
賃 借 料	630,000
会 議 費	87,112
送 金 料	40,160
公 租 公 課	10,334
雑 費	15,750
名簿作成費	1,354,467
合本作成費	135,593
(小 計)	(4,786,984)
次期へ繰越	3,397,348
合 計	8,184,332

3 特別会計 (現地慰霊碑維持基金勘定)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期より繰越	7,500,000		
		次期へ繰越	7,500,000
合 計	7,500,000	合 計	7,500,000

(注) 定額貯金及び貸付信託として保管。

監査の結果上記の報告は適正且つ正確であることを認めます。

平成11年 2月 17日

監 事 高 橋 鎮 夫 ㊟

同 佐 竹 エ ス ㊟

会 長 佐 藤 宗 丕 ㊟

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	450,000
運 営 費	600,000
広 報 費	600,000
賃 借 料	210,000
印 刷 費	30,000
通 信 費	130,000
消 耗 品 費	100,000
会 議 費	100,000
送 金 料	30,000
公 租 公 課	10,000
雑 費	30,000
(小 計)	(2,290,000)
次期へ繰越	3,367,348
合 計	5,657,348

役 員 の 役 割 分 担

担当役割

担当役割

会 長	黒川 誠 渉	外 総 務 幹 事	井上 武彦	広 報
副 会 長	壺間 楽平 渉	外 会 計 幹 事	内海 淑子	慰 霊
常 任 幹 事	石谷 典夫	広 報 幹 事	山口 良二	広 報
常 任 幹 事	荒木 常子	慰 霊 監 事	佐竹 エス	慰 霊
幹 事	高林 芳夫	慰 霊 監 事	高橋 鎮夫	会 計

慰霊祭に出席して

福島県 中根 禮子

この度は初めて慰霊祭に参加させていただきまして本当にありがとうございました。

佐藤さんには、私の手紙に対してまして、じきじきにお電話をいただいたり、あたたかいご助言や励ましのお言葉をいただきました。

慰霊祭に出席の意志を伝えますと、又お電話で、その頃はきっと桜も満開でしょうといわれましたが、そのお言葉のとおり少々のもり空ではありましたが、素晴らしい満開の桜を見ることができました。まさにその美しさは散りもせず咲きも残らぬ、という状況でございました。

前日九段会館の夕食時、福島県の富田ミツさん、村上清隆さん、福井県の坪内さん等々初対面なのに初めてお会いしたという感じがいたしませんで、たくさんお話をさせていただいたり、色々とお話をさせていただきました。

初めて参加させていただいて少々不安な私たちにも皆様暖かくお話

に入れて下さいました。

こんなに知らない人達ばかりなのに、すっぼりとつまれるようなこの安堵感は何なのでしょう。

やはり出席させていただいてよかったという思いです。きっと父もこのように優しい方々の縁故の戦友の方たちと、国の為を思い、そして家族のことを思いながら共に戦い、そして共に散っていったのだと思うと、何か安心することができました。

当日、従姉が東村山の方からかけつけてくれ、大波さん姉妹と共に靖国神社にむかいました。

大鳥居・参道の両側にはたくさんの店が立ち並んでそれはそれにぎやかでございました。

昨日は、主人と娘、孫が九段まで送ってくれましてここで別れたのですが、すごい人出だね、と驚いてしまいました。参道の両側や隅にはたくさんさんのゴミが目立っていました。

私は終戦が小学校一年生の時でしたから教育勅語を習うということはありませんでしたが、戦前の教育のすべてが悪かったというのではないと私は思っています。

あの一億総国民が火の玉となつて戦った太平洋戦争とは何だったのでしょうか。

教育の場でそのことを学ぶことはありませんでした。会社人間、猛烈社員などと呼ばれる人々がひたすら働き、日本人のすべてが中流意識を持つようになり、あふれるほどに豊かな文化生活へとむかってきたのでした。

婦人の地位も年々向上してくつ下と女性が強くなったとか、女性上位とか女性をおおりにたてるような言葉がマスコミを通じて氾濫しました。

入学したばかりまだ戦争が終わる前、
はしとらば
あめつちみよの
おんめぐみ

ちちとはとにかんしゃしていただきます。と唱えながら、梅漬け一個の日の丸べんとうを食べたのを思い出します。

私の好きな言葉です。食物を育てる大きな自然があつて、汗を流して働く父や母がいてそして私たちが自然に大切にしなければ、父や母

を大切にしなければという思いを自然に身につけた言葉でした。

マーシャル遺族会の受付で従姉も慰霊祭と直会に参加させていただけることを聞きましてたいへんうれしうございました。

私たちはすぐに受付で佐藤さんはこちらに？とたづねましたが、全員が集合してお座りした時にすぐわかりました。

思ったとおり素敵な方でした。電話の声と同じに若々しく凛としたお姿に感動いたしました。まだまだ会長さんが続けていたくださったです。

来年は是非、父の玉碎の地、ギルバート諸島の方へ行ってみたいと思つていきます。

慰霊祭がはじまり、御本殿の立派なたたずまいの中で皆様のおことばを聞いておきますと、海ゆかばの静かな音の中で、わづか三千年たらずの日本兵が五万の敵兵に囲まれて、どのような最後をむかえたのか、身体中にかぞえきれない弾痕を受けながらも、おだやかな笑みさえ浮かべた父や戦友の方々のお姿がまざまざと脳裏に浮かんでまいりました。我が国とアジア

の恒久平和の為に全力を尽くすと父は最後の手紙に書いておりました。

全力で戦いきったという父たちの満足感があつたと私は信じています。そして次の世代へと願いを託していったのです。生き残られた戦友の皆様も立派にそういった無言の遺言を継承されてきたと思います。あとは私たち遺児や多くの遺族の方々が受け継いでいかねばならない事でありましょう。日本が今後、私利私欲に偏つて世界の人々をまた冒瀆するような行為を絶対に許してはならないと思います。

今は昭和八年生まれの主人も良く理解してくれて色々協力もしてくれまして息子四十才、娘三十八才も共に感心を持ってくれていると思えます。結婚に至るまでは、父方、母方の人々に可愛がつてもらい、世間では父親のない子と言われた事のないくらい明るく活発な私でございました。

これを機会に、皆様様に心から感謝をすると共に彼の地で散った父の元に報告をし、今日あることを共に悦びたいと思っております。

最後に、意義深い靖国神社参拜でありましたこと、心より感謝申しあげます。

ありがとうございます。

第三特別根拠地隊附・任海軍一等兵曹

昭和十八年十一月二十五日没玉

故 渡部 巖(没年三十一才)
平成十一年四月十二日
長女 中根 禮子(六十才)

福島県 大野 博

爾啓 桜花爛漫の靖国神社で初めて会長様にお目にかかりしかも偶然隣り合わせるといふ私にとりましてこの上もない喜び、幸せでございました。

全てが初めての事ばかりでしたが、各地からご参加の皆様のご慰霊への魂がひしひしと伝わって参りました。兄の戦死後五十五年にしていろいろと消息が判明して写真を手中可以ること等思いを馳せて、正殿参拝では玉串奉奠の栄に浴しましてもう感謝と感激でございました。

会長様には何から何まで数々のご配慮賜りました事何と御礼申し上げます。直会に於てはご挨拶の途中ご紹介までいただくという光栄に、胸が詰まって込み上げるのを禁じませんでした。亡兄の霊が、私のこころに帰りたい。

故郷の山河に戻りたい。という切なるおもいが響いてきたようでございます。

靖国の御霊にぬかづいた私のおもいは、ひたすら亡兄へのなぐさめと幾多の英霊が安らかにあります。すようお祈りと、報恩感謝の誠を捧げるばかりでありました。

四月四日は記念すべき日として、これからの私に一段と充実さを与えてくれるものと信じております。ほんとうにありがとうございます。心から厚く御礼申し上げます。

誤記訂正

「環礁」69号5頁の人名を次のとおり訂正します。

「櫻田 誠司」を「櫻田 誠治」に、「三井 熊雄」を「三井 熊男」に、「塚田 正」を「堀田

正」に訂正します。尚、氏名の右の※印はすべて削除します。70号7頁4段の中、厚生省の所在地「霞が関一―五―二」を「霞が関一―二―二」と訂正します。

ルオットから還つた遺影中の戦死者の戦死場所

厚生省社会・援護局業務第一課調査資料室平林調整班長殿より調査回答して頂きました。

氏名	戦死月日	戦死場所
天野 稻光	S19. 8. 2	テニアン 島
安間 定男	S19. 8. 2	テニアン 島
大川 義人	S19. 8. 2	テニアン 島
大木 重治	S20. 4. 2	フィリピンセブ 島
大野清太郎	S19. 2. 6	ルオット 島
小山 積治	S19. 2. 6	ルオット 島
長谷川太一	S20. 5. 23	ラバウル
松波 熊雄	S19. 8. 2	テニアン 島

新入会員だより

茨城県 横山 芳夫

今般マーシャル方面遺族会々報「環礁」を貴会幹事高林芳夫氏からお送り頂き有り難く拝読させて頂きました。昨年度日本遺族会のマーシャル方面慰霊友好親善訪問団の一員として参加させて頂いた折、九段会館の団結式の席上にてこの会の存在を知った訳です。道中高林氏始め会員の佐藤、鈴木他各氏からも入会の奨がありました。環礁の入会のすすめの欄を見て入会させて頂き度いと思いましたが、ご希望の申し上げます。父の戦死時南洋群島方面としか解明されませんでした。約三十年位前、岐阜市出身の川崎一氏が父はマーシャル群島上空で転戦中に死んだと報告があっただけでした。このマーシャル群島とは唄のことでは知りませんでした。情報もありませんでした。

が平成八年・九年と会長から訪問参加の話がありましたが家庭の事情で昨年に応募参加することが出来ませんでした。絶対父親の戦地戦死の地には行けないと思っておりました。鎮魂の地への墓参慰霊祭にて英霊各位のご冥福を祈りそして父親には追悼文にて面接呼びかける時を得て現況を報告すると共にもう少し母親（貴君の妻）を置かして下さる様お願いして来ました。故郷の酒、煙草、飲み水等をお供え一生一代の願望が叶うことが出来ました。この様な美しい紺碧の空、群青の海と白波打ち寄せる珊瑚礁のマーシャルを訪ねて何故戦争があつたのかと想うに悔やまれてなりませんでした。考え様では幸せな戦死地とおもいました。

時帰国時に当たり多くの御世話に感謝を申し上げ写真を見ながら語り、お礼を申し上げることが出来ました。この一期一会を大切にしてください。心算です今後何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本部だよりに記載されてますが「環礁」の発行済で残部各号がございましたら頂き度いとも思います。切手を同封致します。必要だけ使って頂き残りは何かの連絡にお役立て下さい。

何卒今後共よろしくお願ひ申し上げます。

土浦市小松二一九一
横山 芳夫
〇二九八（二一）八一五四
父故 横山 精二 長男
昭和十九年三月三十一日戦死

福島県 中根 禮子

初めてお便り申し上げます。先日、高校時代の同期生で還暦の会を催した時の事でした。親しくしている友達がこういう会があるんだよ、と、マーシャル方面遺族会の冊子を貸してくれました。私も戦争遺児であること、そして父親はギルバート諸島方面にて戦死したことを彼女は知っていました。

おりしも先日一月四日、父方の実家よりいとこから電話があり、家の整理をしていたら、父の出征時の写真がでてきたとのこと。すぐ渡したいから来るようにということでした。それは、真白な海軍服をまとったひときわ背の高い勇姿でございました。送られるもの送るものたちの群像で、駅で送る歓呼の音が聞えてきそうな生々しい映像でした。又それに合わせた様に留守家族の写真が同じアルバムの中に納まっていました。父、母をはじめ兄弟姉妹の姿、そしてまたあどけなさが残るような妻（私の母）の姿が見られました。

余りにもタイムリーな出来事は、すっかり忘れかけている父親への思いに気付かされ、心ふるえる思いがいたしました。

どんなにか、私や妹、そして母にも思いを残しながら逝ったことだろうか、その事をすっかり忘れておりました。自分が今、様々の

人々の愛をうけて、立派に還暦をむかえた事を、父に報告をしなればならないのです。何卒お力添えのほどよろしくおねがい申し上げます。母も又十年ほど前に再婚

先で亡くなっており、細かな事を知らぬ術もありませんが、先日でてまいりました写真の裏書きの中に昭和十三年拾月廿八日ニ送付シタ

ル写真昭和十四年正月十一日午前十時に到着セリと書いた防寒帽をかむり防寒コートを着、銃剣を持つた長ぐつ姿、尚同じく佐世保局經由海軍第二軍用郵便所第三派出所

気附港務部第四十六号艇と書いてありました。しかし昭和の何年かはわかりませんがこの後帰郷し昭和十七年再出征となったと思われ

ます。参考までに私の生年月日は昭和十四年二月十四日でございます。昭和十七年後半に十月二十日には父再出征の後妹が生まれました。その後写真のやりとり程度で妹は父の手に抱かれることはありませんで

ました。私の記憶にある最後の父は横須賀港だったようにおぼえております。抱きあげられてホラこれが海

だよと暗い海面を見せてくれました。空には何本ものたんしやうと

うが交錯している光景は今も暇の裏に焼き付いております。

出身地(現在)

福島県会津坂下町金上字新開津

渡部 巖 享年三十一才

十一月二十五日戦死。

骨箱には写真のみ入っております。

会員名簿後半の方に、平成十年二月二十三日には政府の遺骨収集団がギルバート諸島から遺骨が奉還された事を知りまして感動いたしました。忘れられてはいなかったと、私の父はどのような最後であつたのか、島の上だつたのか船の上だつたのかぜんぜんわかりません。

時々送られてくる写真の中に航空母艦と思われる広い広い甲板と飛行機のプロペラと思われるそばに立つ戦友の方との写真もあつたようにおぼえております。

名簿を拝見いたしますとギルバート諸島方面の方はずいぶん少ないように思いますが、その中で二十三頁岩手県の花巻市の高橋様とか

二十六頁ひたちなか市の柴沢様とかが同じ命日となっております。何か父と関連のある方々かもしれない。胸がさわぎます。

所属部隊もわかりませんが何卒

おしらべいただけませんでしょうか、生年月日もくわしいことはわかりません。母と五才ちがいと云つ

ておりましたから多分大正元年か二年の生まれではなかつたかと思

います。

今不景気のどん底とは云いながらも、私としましてはホッと一息することができるようになった今、やつと父の叫びが聞こえてくるようになりました。十九才で結婚して四十年働きづめの人生でした。しかしその陰にはいつも目に見えない父の加護が常に感じられました。心から感謝すると共に安心して安らかにやすみ下さいと云つてあげたいのです。

靖国神社参拝にも妹と共にいつか参加させていただきたいと思つております。

尚入会の手続きはどのようにすれば良いのか、おそれ入りますがおしらせ下さいませ様にお願い申し上げます。

私のお友達の名前は大波恵美子さんです。クエゼリンでお父さんを亡くされ写真が一枚も残つてないことをなげいておられます。参拝の機会にどなたか戦友の方にお逢いして情報を得たいものと云つておられました。

拝復(平成十一年一月十七日)

この度お忙しい中、うれしいお電話をいただいたり、具体的にわしいたくさんの資料をお送りいただきまして本当にありがとうございます。

早速、実家の役場の方にてむきまして、父の正確な資料を貰つて、厚生省の方に送りたいと思っております。

これを機会に母から預かっておりましたたくさんの手紙を昨夜読みかえしてみました。おそろく最後の手紙となつたであろう昭和十九年二月一日に到着した軍事郵便の末尾に、それでは又便りする此の日は健在なり皆元気で暮らせ、と締めくくつてありました。

この便りが届いた頃は、既に玉碎

(以下省略)

ルオットから還つた遺影(三)

前会長 佐藤 宗丕

「環礁」69号と70号でお知らせした標記の続きを申しあげます。

① ルオットの戦場の遺留品写真のうち、裏面に氏名の記入のある二十四名について厚生省と該当都道府県の御盡力によって、二十三名については調査が済みました。

厚生省から、写真を希望する本人又は遺族には都道府県を通じて引渡した旨の通知を頂きました。

② 群馬県の故松波熊雄様の令弟松波文夫様から、写真の拾得状況について照会がありましたので、関係資料をお届けしたところ大要次のようなお便りがありました。

『お送り頂きました資料により五十何年か前の兄の消息に今さらに涙を新たにしております。吾が家にある十八年二月の記念写真にも兄の筆跡で出身県と郡が入って居りますのでコピー

してお送り致します。

寒さが益々厳しくなりますので充分お気をつけて、遺族会のために御活躍下さいませようお願いいたします。』

③ 福島県の大野 博様から大要次のお便りを頂きました。

『十九年二月にルオット島で戦死した兄の遺留品が、米海兵隊員ズーリックさん父子の御好意で返還され、その御縁でこの会に入会させて頂き、今年の慰霊祭に初めて参加して玉串奉奠や、直会で皆様にご挨拶させて頂く光栄に浴し、感激いたしました。この度初めて役員や会員の皆様にお目にかかって、いろいろのお話を、伺っておりますと、兄の霊が私に、切ない思いを語りかけている。ように感じられました。二百五十万柱の護国の英霊、とこしえに安らかにあられますようにとお祈りし、報恩感謝の念を強くいたしました。四月四日は記念すべき日として、私の今後の人生を充実させてくれるものと信じております。』

④ 静岡県 の 堀田 正様から大要

次のお便りを頂きました。

『二月二十五日に静岡県庁から十八年二月の記念写真を頂きましたが、五十余年経つた今、どうして私の所にこの写真が届けられたのか、皆目見当が付きませんでした。この度貴会からの懇切なお便りと、「環礁」その他の資料により、委細を知り、感涙にむせびました。心にかけていても知るすべのなかった上司や戦友の消息の一部がわかり唯々驚くばかりです。大野慎太郎さんの戦死と彼の遺留品のおかげで大ぜいの消息がわかったことに感動いたしました。まだ消息のわからない人について判明しましたら教えて下さい。尚、私の記録したものを御参考のためお送りします。』

ルオットから帰つた写真

宮城県加美郡中新田町

平柳字上切替三二二

佐々木峰子

昨年十二月七日役場よりマーシャル島より父龍治の写真が届いたと
の電話がありました。

受け取って見てびっくりしました。

勲章をつけた中尉姿の父でした。何故勲章をつけて、マーシャル島に行つて写し、島民において来たものかと、不思議でなりません。九十才になる母も健在です。でも母は、勲章は遠方には持参しないはず、マーシャル島にも行つた覚えはないと申して居りました。大尉で終戦になったので何年か前の出来事と二人で話しをしてました。この度環礁をお送り頂き写真のいきさつがはつきり分かりました。

戦死なされた方、どなたかに差し上げたものと存じます。その方の魂が今日までの絆となつて私の手に渡つたものと深く感謝の念に頭が下る思いで一ぱいです。

父は六〇一(天理)航空隊で終戦となり、私共が疎開をしていたこの土地に復員して来ました。

その後は農業を営み昭和三十七年、六十二才で病死致しました。アンドリュ様、パトリック様、英子様、山森様を始め皆々様の心盡しの御配慮に心より御礼申し上げます。本当に有り難う御座いました。

寄付者芳名

(敬称略・順不同)

次の会員、会友の皆様は年度会費を完納された上更に慰霊奉賛のため浄財を御寄付下さいました。厚く御礼を申し上げます。
今後とも本会の存続のため何分の御協賛を切にお願い申し上げます。

北海道	岩川 あい	穂刈 直	津久井 艶子	豊谷美恵子	廣原 チヨ	宮下 礼子	岐 阜 県	鳥本 和子	吉田 綾	山田 雪子	長 崎 県	安達シツヨ	板浦 重雄
青森 県	菅井 光	田中 正治	宮本 豊吉	谷沢 英子	米田 正子	渡辺 三三	静 岡 県	飯田たつ子	市川 市郎	中野フジエ	林 文枝	前田 フサ	
塚原 ハナ			東京 都	青木 利一	荒木 常子	静 岡 県	江藤ふみ子	大塚 かね	後藤 行雄	森 テル子	山下 タエ		
岩手 県	小杉 サヨ		飯島富美子	石川 勲	石谷 典夫	静 岡 県	土屋まさ子	野崎 豊秋	服部くにゑ	熊 本 県	植川 二男	植田 静夫	
宮城 県	相馬 ツキ	高橋とし子	石橋 湛一	岩浪 邦江	内海 静枝	江藤ふみ子	愛 知 県	安藤 昌子	川越 コウ	片山 玲子	鬼海 富夫	北村 權蔵	
平形いせこ	松木 孝子		金沢 明美	国松ふみ江	栗田千代子	土屋まさ子	愛 知 県	安藤 昌子	川越 コウ	片山 玲子	鬼海 富夫	北村 權蔵	
秋田 県	奥山 キノ	近藤キクエ	黒川 誠	小島八重子	小山キミ子	愛 知 県	川村 正一	山田 あき	三 重 県	伊藤 みね	中川 修		
佐藤 敏子			齊藤耕太郎	齊藤 孝平	齊藤 芙美	川村 正一	三 重 県	伊藤 みね	中川 修	大分 県	木村二三夫		
山形 県	丹野 アサ		佐竹 エス	佐藤 宗丕	菅沼 昇	三 重 県	京都府	川本 彦次	中川 修	宮 崎 県	森 フサエ	山内 キク	
福島 県	鶴沼 久義	江間正二郎	菅谷喜代子	高橋 鎮夫	高橋はるみ	京都府	村上 増枝	八木 きよ	中川 修	鹿 児 島 県	川畑ツルエ	野平 ヨネ	
小野 敏子	鈴木ヨシエ	富田 ミツ	田島智恵子	谷梯 初江	佃 喜美	村上 増枝	大 阪 府	伊藤 登	馬場富美子	沖 縄 県	久高 友三		
茨城 県	大熊さと子	神谷 和枝	中村 久	中村 順子	西沢 和子	大 阪 府	伊藤 登	馬場富美子	沖 縄 県	久高 友三			
北條 晃	堀江 誠一	矢吹 はま	沼山 正英	長谷川智子	番場 信子	兵 庫 県	枝光 剛郎	土井 厚二					
吉見 千寿			晝間 楽平	矢野 雄三	山口 裕子	兵 庫 県	枝光 剛郎	土井 厚二					
栃木 県	猪瀬 ナカ	木村恒三郎	山森 久江	六軒つる子		山形 雅俊	安福 道明						
田名綱武夫	吉川 芳蔵		神奈川 県	赤坂 スズ	石沢 洋子	山形 雅俊	安福 道明						
群馬 県	土岐 正	日向野キク	上田 文子	小川 正博	沖立 ナヨ	和歌山 県	福井 栄子						
松波 文夫			金子 武晴	川名 茂子	熊澤 静子	和歌山 県	福井 栄子						
埼玉 県	天野 好子	井沢 なを	近藤 芳雄	佐藤 登志	宍戸献吉郎	島 根 県	中浜ヒメコ						
宇田川ひさ	小野 博孝	小田原利子	近藤 芳雄	佐藤 登志	宍戸献吉郎	島 根 県	中浜ヒメコ						
神谷 迪	近藤マスイ	佐藤 知子	近藤 芳雄	佐藤 登志	宍戸献吉郎	島 根 県	中浜ヒメコ						
柴田 貞子	千田 恒子	藤田 清瀬	新 潟 県	安中 キヨ	片桐 さき	廣 島 県	植田 敏裕	浦手 ハル					
北條ひで子	山下 みつ		小林 正道	坂井 繁男	渋谷セキノ	廣 島 県	植田 敏裕	浦手 ハル					
千葉 県	相川 孝夫	石川 きみ	小林 正道	坂井 繁男	渋谷セキノ	廣 島 県	植田 敏裕	浦手 ハル					
泉水 堯恵	倉田 茂弘	浄永 孝	古川 龍尊	山田 正三	米田 トシ	久保田泰子	小西 勝	長岡 俊夫					

以上は平成十一年一月四日から三月二十九日までに寄付された方々二三五名で、その合計金額は百七万八千円でした。ありがとうございます。

キリバス諸島及び マーシャル諸島 遺骨収集報告

厚生省社会・援護局援護企画課

小林 和夫

キリバス共和国遺骨収集団（応急派遣・団長 伊藤雅夫）は厚生省職員のみ三名の団編成で平成十一年二月十六日（火）～二月二十五日（木）の間十日間、実施されました。

今回の遺骨収集は平成十年二月に実施した遺骨収集応急派遣の際に確認したものの、時間不足のために、収集できなかった遺骨の収集及び調査できなかった遺骨情報の確認（二地点）を目的として実施されました。

タラワ空港には環境省管下の文化センター館長が出迎えてくれました。プタリタリ空港には島長（「チーフカウンセラー」）及び秘書官のボータラ女史が出迎えてくれ、情報提供者のナケー氏が常時同行しました。

プタリタリ島滞在は五日間、五地点において二十柱の御遺骨を収

集し、本邦に送還しました。
ア ウキアングガン岬ワキキ村から九柱収集。ご遺骨は、ほぼ完全一体の状態

イ アイネンカラワ小学校付近から一柱収集。

ウ オノマル村の集落にある慰霊碑のすぐ脇から一柱収集。

エ ナンテイナウラ小学校付近から一柱収集。

オ 空港北、約十キロ地点において八柱収集。

また、島内四ヶ所の調査を行い、試掘も実施しましたが、ご遺骨を発見することはできませんでした。



遺骨収集の為二mもの穴を掘った

マーシャル諸島遺骨収集（応急派遣・団長 小林和夫）は厚生省職員三名のみの団編成で平成十一年二月二十八日（日）～三月十日（水）の十一日間にわたり実施さ

れました。

今回の遺骨収集は、石川県ミレー島慰霊団によりもたらされた情報により、マーシャル諸島共和国ミレー環礁エネゼット島西側突端のマンガローブ林において実施しましたが、ご遺骨を収集することは出来ませんでした。

また、同島の長老達から遺骨情報の確認に努めましたが、新たな情報を得ることは出来ませんでした。



焼骨

なお、同島については、昭和四十八年に政府の遺骨収集団が、三ヶ所の墓地からご遺骨五十五柱を収集しています。

今回の政府派遣団は、エアマーシャル機が修理中であったため、

マジユロからキャプテンピーター号（一〇〇トン）で十時間かけてミレー環礁に入り、さらに二時間かけてワウ島に渡り、そのリゾートを宿泊所とし、エネゼット島を往復する形で、収集作業を行いました。マジユロからミレー環礁に到達するまでに、外洋の巨大な波に木の葉のように揺られ、改めてエネゼット島（旧チプリメン島）が、太平洋のほぼ真ん中に位置する島であること、また、おそらく五十年前と同じように、常に赤道付近特有の風が吹き、雲が流れ、風によって起こるエメラルドの波に洗われた美しい島であることを実感しました。



骨上げ

会友だより

第七五二空

ルオット基地を思う

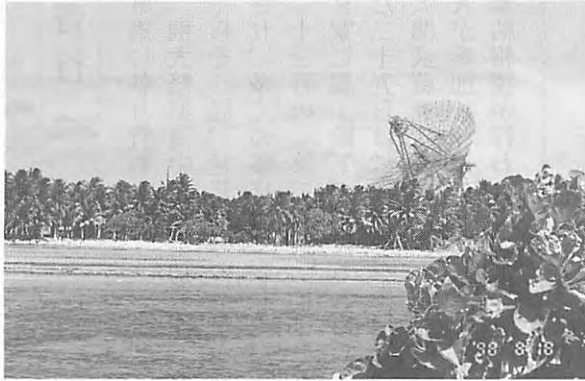
小島 忠夫

昭和十八年十一月二十四日七五二空はマーシャル群島のルオットに転戦し七五五空と共に作戦に参加する。このルオット島はエメラルド色に輝く海に囲まれた珊瑚礁で美しい島である。その島が連なつてクエゼリン環礁が出来ている。

この島での任務は米海軍機動部隊に対する哨戒と雷撃であった。島に着いたその夜早速哨戒があり仲の良い戦友で偵察員だった中村兵曹が出撃したが、朝になつても帰らず最初の未帰還機となった。この中村兵曹は豊橋航空隊で分隊は違うが同じ家に下宿していた仲で、同郷のよしみもあり良家のボンボンの様などころがあり何故か気が合つてよく飲みに行った無二の戦友であった。その彼を失った事は大きなショックであった。然しその悲しみを乗り越え日夜灼熱

のなか、キラキラ照り返す海面すれすれに幾時間も扇状に飛び、敵機動部隊の位置発見と雷撃が続けられた。

十二月三日マーシャル群島に襲った敵機動部隊に対しマーシャル沖航空戦を展開し、レキシントンを撃破した。然し十九年一月三十日にルオットの大空襲があり、空襲警報と共に兵舎から海岸に退避する、その間B25らしい飛行機が低空で焼夷弾を雨あられと落とし飛行場を中心とする島の大半は



現在の米軍レーダー基地

火災となり空を真赤に染めた、今度は爆撃による空襲で飛行場、兵舎が狙われた。空襲もようやくおさまり寒さと腹ペこでまんじりともせず、なすすべもなく夜を明かした。明方無線連絡があつたのか、沖合に二式大艇が救出に来たらしい。空ドラム缶四個を繋ぎ合せ筏にして、搭乗員達は何人かに分かれ大艇まで泳いで無事テナアンに救出され少し休養をとる。これは後で聞いた話ではこの空襲で救出された搭乗員は七十数名だったらしい。このルオット基地には資料によると、山田道行少将指揮のルオット、ナムル島隊(第二十四航空船隊と第六十一警備隊分遣隊など)が約三、一〇〇名だった。この中には非戦闘員が一、〇〇〇名以上も含まれていた。二月一日頃からクエゼリン各島は米海兵隊が上陸を開始ルオットで最初の出撃で南海の海に眠る無二の戦友中村兵曹の事が思い出される。彼の住所を聞かなかつたのが未だに悔やまれる。

遙か南の空に合掌

(中攻別冊第47号より)

転載させていただきました)

計 報

会員鈴木梅太郎様は三月二十七日逝去されました享年一〇一才謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

尚会費は平成十五年まで完納されていきますが、ご家族より寄附する旨の申入れがありました。



現地に残された日本軍の遺物(神奈川 片山 計様提供)



靖国神社だより

春季例大祭盛大に齋行

靖国神社春季例大祭が四月二十一日から二十三日までの三日間、

厳肅に執り行われた。

十二日の当日祭には天皇陛下が勅使をご差遣になり御幣物が奉られた。

全国から集まった戦没者遺族、戦友、崇敬者をはじめ、各界代表者七百三十八人と野田郵政大臣が参列し湯澤貞宮司以下三十数名の神職の奉仕のもと、午前十時から

一日から二十三日までの三日間、

厳肅に執り行われた。さくらそう展、盆栽展等の行事が催され、多くの参拝者で賑わった。

二十三日の「第二日祭」には三笠宮寛仁親王殿下が参拝された。

また二十五日は、大相撲力士横綱曙、大関武蔵丸、貴ノ浪以下総勢四百人が参加し、ご英霊をお慰めする奉納相撲が行われた。

「昭和館」開館

休館日 月曜日 三十分

「昭和館」開館

休館日 月曜日 三十分

靖国神社にちかい、九段会館の隣接地に戦没者追悼平和記念館「昭和館」が今年の三月開設された。

四月数人の遺児達と早速入場しました。パソコンにより、所属する部隊名に乗っていた船の名前などから戦死した父親に関する情報が、すぐに画面に出す事が出来ました。今のところプリント出来ないのはちよつと残念でした。

全国の戦没者遺族が、「苦勞した戦没者遺児に対する慰めの気持ち」を形に表すと同時に、悲惨な体験を繰り返さない為、戦争の本当の姿を後生の世代に伝えたい」との趣旨で建設された立派な建物である。

入場料 大人三〇〇円

開館時間 午前十時から午後五時



昭和館

昭和館とは

昭和館は、主に戦没者遺児をはじめとする戦没者遺族が経験した戦中・戦後（昭和十年頃から昭和三十年頃までをいいます。）国民生活上の苦勞についての歴史的資料・情報を収集、保存、陳列し、後世代の人々にその苦勞を知る機会を提供する施設です。

昭和館の三つの事業

◎陳列事業

戦中・戦後の国民生活の姿を伝える実物資料の陳列を行うとともに、広く収集・保存をいたします。

◎図書資料等閲覧事業

戦中・戦後の国民生活についての図書・文献資料及び映像・音響資料を収集し、その資料の閲覧提供をいたします。

◎関連情報提供事業

戦中・戦後の国民生活についての当館所蔵図書・所蔵品の情報のほか、内外の図書館等の文献・資料の所存及び関連施設の概要等の情報を提供いたします。



靖国神社例大祭ポスター

今月の社頭掲示

靖国神社では、多くの参拝者に、祖国を愛しつつ戦歿された霊の御心に触れていただきたいと、毎月社頭に御祭神の遺書・書簡等を掲示しています。

今年の慰霊祭時の社頭掲示の遺書をご紹介します。

4月の社頭掲示

遺書

海軍大尉 大田博英命

昭和二十年四月六日

南西諸島にて戦死

神風特別攻撃隊第一筑波隊

海軍第十三期飛行予備学生

鳥取師範学校

鳥取県東伯郡下北條村出身二十三歳

(前略)

御父上様、多年の深海重山の御恩に報ゆべき秋が参りました博英は、今から征きます。俱に御喜び下さい。只、皇國永世の安泰を願ふのみです。必ずや御期待に添ひます。御祖母様にも宜敷くお伝へ下さいませ。もうすぐ春です。

裏の山桜も咲ませう。菜種の田が眼に浮かびます。小川の想出、

懐かしい。故郷の想出は尽きませ

ん。敵は眼前に迫りました。最後の勝利を確信します。来るべき大捷の日をまぶたに、笑って静かに去ります。ではお元気で。

父上様 出撃を前にして 博英

(後略)

靖国神社御創立一三〇年

【やすくにの祈り】

ともに未来へ

靖国神社崇敬奉賛会設立趣旨

靖国神社は、明治天皇の思召しによる明治二年の御創建以来、平成十一年で一三〇周年の記念の年を迎えました。

この間、近代国家建設の途上に遭遇した幾多の戦争で貴い生命を国に捧げられた二四六万六千余柱の「みたま」(英霊)をお祀り申し上げ、国家安泰と国民の安寧への御加護を祈り、悠久の平和を祈願する神社として、国民の厚い崇敬を受けて参りました。

しかしながら、戦後五十年を経た今日、世情は変容し、これまで神社を支えてきた御遺族・戦友の方々の高齢化により、今後参拝者

の減少が予想され、悠久の神社護

持の前途に懸念の兆しが窺えます。さらに、戦後世代の戦歿者英霊に対する崇敬の意識は希薄であり、散華された英霊の御心を思えば憂慮を禁じ得ません。

このような世情を直視するとき、英霊に感謝と報恩の誠を捧げることとの重要さは申すまでもなく、英霊の御遺徳を子々孫々まで変わることなく顕彰し伝えていくことこそが、太平の世に生きる国民の負うべき使命であることを痛感致します。また、今日の荒廃した精神状況に対しても、英霊の克己・献身の事績とその精神をしらしめる事が、生命の尊厳への認識と、父祖の世代への感謝の心を醸成し、わが国の伝統的道義・道徳心を取り戻す教育的役割を果たすものであると確信致します。

そこで、今般、靖国神社御創立一三〇周年にあたり、「靖国神社崇敬奉賛会」を新たに設立し、同じ思いを懐く有志が相集い、この使命の遂行を国民的運動として展開することになりました。

つきましては、御遺族、戦友の方々をはじめとする崇敬者各位は

もとより、日本の将来を担う社・

青年層の方々から幅広く御賛同をいただき、本会には是非とも御入会の上、事業への御協賛を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成十年十二月二十七日

靖国神社崇敬奉賛会会長

山内 豊秋

靖国神社宮司

湯澤 貞

平成十一年厚生省主催

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拜礼式

新たに千八百二柱を納骨

新緑が美しく映える五月三十一

日午前十一時、東京千鳥ヶ淵墓苑に、三笠宮同妃両殿下御臨席を仰ぎ、小渊内閣総理大臣、厚生大臣、駐日大使、等多数の来賓と、全国各地からの遺族代表が参列して、厳粛盛大に挙行されました。

当会から黒川会長、キリパス友の会から五名のご遺族が参列されました。今年にはギルバート関係の三十三柱が納骨されました。

本部だより

慰霊祭からはや四ヶ月、皆様如何お過ごしですか。満開の桜から、新緑、ゴールデンウィーク、梅雨、そしてヨーロッパと東南アジアでの戦争、世界各地では戦争の悲劇が現在まだ続いています。私共遺族は、これからもぜひ戦争の悲惨さを次世代の方々に、体験を通じて、具体的に伝えていきたいと思えます。皆様のご協力を切にお願ひいたします。

此の度は会長役員の交代がありました。本誌「環礁」も、編集者兼発行者でありました佐藤前会長が、引退する事になり、あまりにも偉大なるご尽力の為、誰も引き継ぐ事が出来ず、廃刊の危機にありました。役員一同非力ではあります。一致協力して、英霊と私共を結ぶ貴重な連絡情報誌の役目を、従来どおり果たすべく、これからも続ける事になりました。会員、会友関係各位の更なるご連絡、ご投稿を是非お願いいたします。

申すまでもなく佐藤前会長は、

三十六年間に十四年間に涉り、本会の会長として維持運営にあたられ、本誌の編集にご尽力されました。その間奥様にも大変なご協力は言うまでも有りませんが、ご自身で健康管理に努められ、最近でも自ら車を運転されて厚生省など、関係各所へ交渉に飛びまわられたりしました。お医者さんからは小さな文字を読むのを止められているそうです。英霊に対する前会長のお気持は、慰霊祭時に奏上された祭文にあるように今のこの平和な自由と繁栄の幸せが、英霊のご加護によるもので、感謝の気持ちにじみ出ておられました。本当にご苦勞様でした。総会で奥様からご挨拶を頂きましたが、そのなかで遺族会の仕事を、ご自分の健康に良かったとおっしゃって頂きました。ご自宅から日本橋までかなりの道のりです。そして本部は四、五階にありましたのでその上り下りだけでも大変でした。これからはますますお元気に、ご健勝をお祈りいたします。会友、会員の皆様から、前会長の思い出、エピソードを送ってください。

今後の会報「環礁」をどうする

かについて、役員一同議論をしております。会員とのコミニケーションを計る事が第一である事は言うまでも有りませんが、悲惨な戦争を熟視し、当時英霊が遭遇した状況をあくまでも知りたいご遺族の方も多数おられると思います。一方英霊は祖国の為に尊い命を捧げられて、靖国神社の御祭神になられ、御遺徳、御心をお忍びする事であると考えるのご遺族もおります。どのような記事が望みますか。会員の皆様からのご投稿を中心にと考えております。はがきに、ほんの一行でも結構です。

会友からのご投稿は、戦争当時の生々しい悲惨な情報もあります。ご本人しか知らない貴重な情報です。知りたい方、今更知りたくない方もおられると思えますが会員の皆様のご意見をお寄せ下さい。本誌には掲載できませんでしたが、お気づきですか。文字を少し大きくしました。文字数は少なくなりましたが、読みやすくしたつもりです。本誌の体裁について、ご意見をお聞かせ下さい。

来春の慰霊祭が、四月二日に決まりました。元氣な皆さんとお会

いできることを楽しみにしております。季節柄お身体を大切にお過ごし下さい。

援護法改正案が成立

戦傷病者、戦没者遺族等援護法等の一部並びに恩給法の一部を改正する法律案が国会で可決成立した。

平成七年四月一日から平成十一年三月三十一日までの間に公務扶助料等の受給権を失った遺族に二十四万円国債（六年償還）の特別弔慰金が支給される事になり、各市町村役場で今夏から請求手続が開始される。

「日本遺族通信」より

本部
〒142-0051 東京都品川区平塚
三十四一十七
マーシャル方面遺族会
電話〇三ー三三七八三ー八三八二
FAX〇三ー三三七八三ー八三八四